



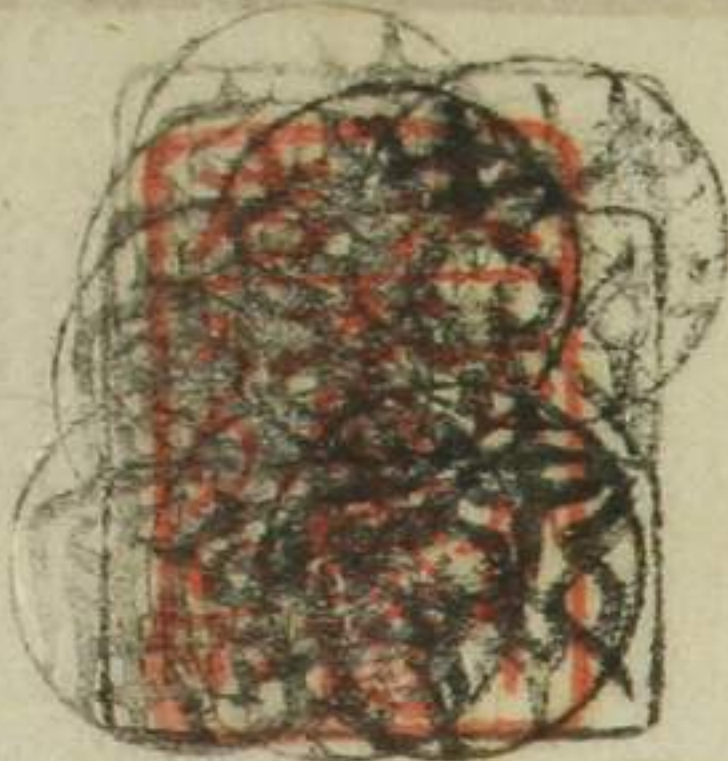
特別  
~ 13  
8633  
44





明 へ13  
3633  
巻 44

之合



大本久

師首問

序

建永  
師首問

孝行<sup>かぎ</sup>を<sup>い</sup>賞<sup>うら</sup>ま<sup>さ</sup>し。不<sup>ふ</sup>考<sup>こう</sup>を<sup>い</sup>受<sup>う</sup>け<sup>い</sup>だ<sup>す</sup>れ<sup>ん</sup>。ハ。  
實<sup>じつ</sup>多<sup>た</sup>川<sup>せん</sup>柳<sup>りゅう</sup>多<sup>た</sup>兵<sup>べい</sup>妙<sup>みょう</sup>を<sup>い</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>る</sup>部<sup>ぶ</sup>。虚<sup>うそ</sup>を<sup>い</sup>実<sup>まこと</sup>と<sup>い</sup>ふ。  
中<sup>なか</sup>街<sup>がい</sup>通<sup>と</sup>り<sup>ま</sup>に<sup>い</sup>通<sup>と</sup>り<sup>ま</sup>に<sup>い</sup>汲<sup>く</sup>り<sup>ま</sup>に<sup>い</sup>意<sup>い</sup>氣<sup>き</sup>路<sup>ろ</sup>と<sup>い</sup>す。  
磨<sup>こ</sup>く<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>駒<sup>こま</sup>下<sup>か</sup>法<sup>ぽう</sup>。ソ<sup>し</sup>の<sup>の</sup>な<sup>な</sup>を<sup>を</sup>風<sup>かぜ</sup>に<sup>に</sup>吹<sup>ふ</sup>か<sup>せ</sup>て<sup>い</sup>出<sup>い</sup>だ<sup>す</sup>る。  
禱<sup>うま</sup>の<sup>の</sup>外<sup>そと</sup>八<sup>はち</sup>丈<sup>じょう</sup>字<sup>じ</sup>。ゆ<sup>ゆ</sup>も<sup>も</sup>有<sup>あ</sup>り。又<sup>また</sup>昭<sup>あき</sup>火<sup>か</sup>と<sup>い</sup>ふ。

昭和二十二年六月八日  
宮川曼魚氏書贈



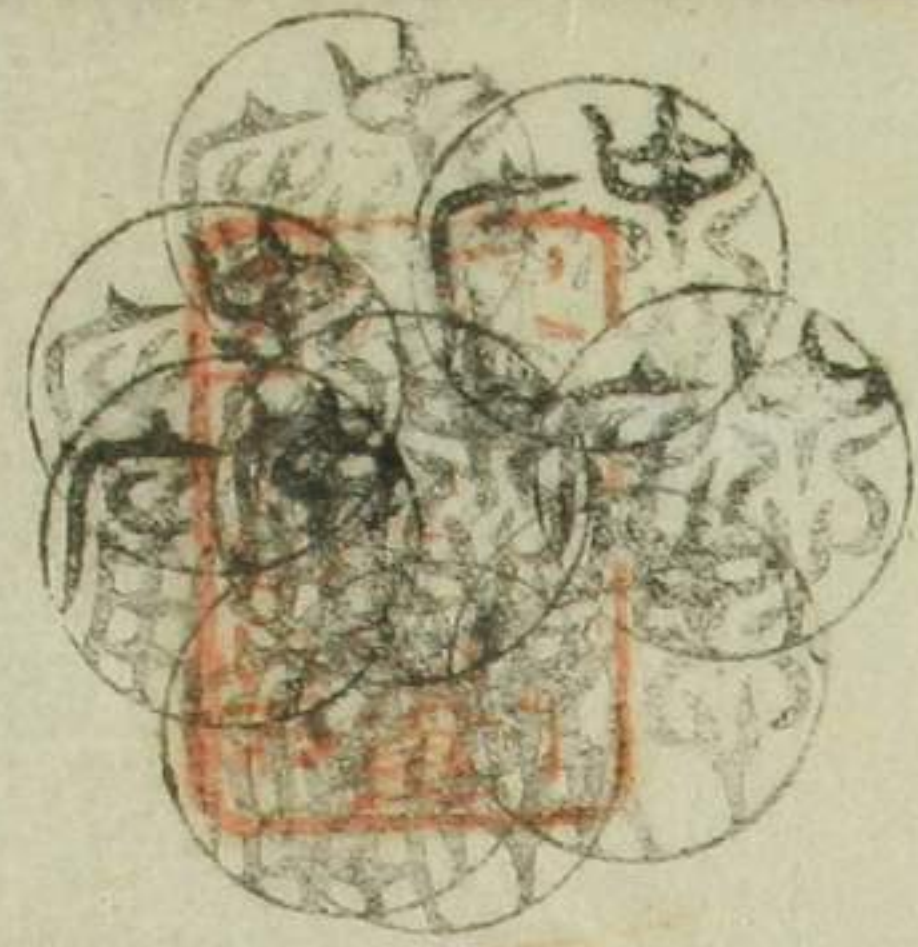
茶屋の軒端の燈の。其の焔は  
 流るの身。辛氣辛苦の苦果を  
 たと一文が鉄袴と買ふも。豈  
 千金の尊と好ん。てまゝの管  
 のもろみかと。月を稚油の音色  
 軒の。道に廊は裏茶楼の。

客序ノ一

娼婆とゆふをぬいと。酔を  
 味ふ梅暮里谷我子。嗚呼其  
 才は高ふと。山道尻乃火見櫓  
 と足下り。懐く筆頭の走る。夏  
 南一の罫駕と。まゝせん。不傳  
 伴頭新造と。むら。惣菜は。



大本久津



傾城買二筋道

智者尔毛。一失の禮は愚る乃

一徳ある。加賀踏の弱も薩摩

布の強も。さうさ御姉の棚丸毛。

脊負下。利お流む捨ごく

喰らふ。尻の如き席丈と作。謹  
てまのそ。一寸マアお見あんやと

志ろいふ

于時寛政戊午春視初衣裳日

於囉囉樓上式亭三馬紋



文



通子の云。遊活郎乃飛功は。  
 醜丈は温柔尔を。猶及る  
 がどしとを。宜から。人々只  
 ぶ農やわしきこや。守り  
 れ。不儀がゆくと書古平

序

志二里

午乃山

梅暮里谷峨述







雪華一画



序二



大正

目録

○夏れ床

○冬れ床

こゝろ敷ふ

寝よ記巻め 谷山

生置り申

序三

傾城買二筋道

谷峨作

○夏れ床

世界ハ小見勢客ハ二十五六のそりな乃な  
さいろ男にて腕どころあきほと已腕の未至通  
む地也り向前通方ハ二十一二たいていさし川  
五會め

水湖子て合 夜半の短うをよけれどもおりあとの  
こと作條の娘よはてはらんとあんならの中と







くうんがーとくあんまじらあちらとつらじが  
あびくごるあさうまゆかのうとお袋の小  
ける鯉節そがてとくねハねら<sup>[四]</sup>猫  
ドヤアあんあーとらてふねまらがあさう  
いずあそーとあんのかえん<sup>[三]</sup>あんで  
ねとしまららあさうはあへぬせいなりだ  
あああむごらあんす口のものをとけわういず  
あわれふあまご人のねととて口の口といお

とつ二

かとおのりて<sup>[四]</sup>あまらあいのねがまゆあまの  
くつご<sup>[四]</sup>あそごあん<sup>[三]</sup>あまのあまの  
のとえ<sup>[三]</sup>れて判いた<sup>[三]</sup><sup>[四]</sup>あむうい  
ねい十二で賣れて親判さ<sup>[三]</sup><sup>[四]</sup>十二で賣れ  
て親判なれ<sup>[四]</sup>あそ<sup>[三]</sup><sup>[四]</sup>十三十四十五十六は  
四年ハあせ編へ<sup>[三]</sup>つせ<sup>[三]</sup>あ十年ああは  
あんご<sup>[三]</sup>あ女ごあ子<sup>[三]</sup>あねん<sup>[三]</sup>あ十  
ああ<sup>[四]</sup><sup>[三]</sup>あとあす<sup>[三]</sup>あ<sup>[三]</sup>あ























とくふきのごころ人形芝居の太刀おとるる  
よめよふサヤ袖く大さるるひついでにりあより  
するのりゆりふ都合でなんは水犬のや  
とんかき移友とさしこりいひあぶるるん  
ちやとるるまぶの地がすいへんぞとねて耳  
のこいひはぐくはうまけのと智慧のね所とを  
つとよぬとや町川をへるこつ錢けりけ  
れハナアのちのり錢のわけとあへておん

あん〜〜〜まが丈ぬよらう〜〜〜智慧  
のてあまのいぬ〜と黒境の〜とれとのん  
ら〜〜〜かぬもろぞ智慧とあ〜〜〜ん  
す〜〜〜まるとか〜〜〜男あア〜〜〜あちつで  
もさや〜〜〜んでやろすカ何いらおとこ  
まの〜〜〜男とんち〜〜〜あだ〜〜〜ん  
の使とん〜〜〜あ〜〜〜其心合もら〜〜〜す  
ごあ鹿〜〜〜ぬとねれね〜〜〜アぬ











るやアまじりのふしはありか世の中ごとくあり  
うもあやむとぞけしもの八相根の内開てふ  
こぬんぐさすぬまのすぬのすぬ花さかをさんお  
さゆんーさゆんがさゆんのさゆんのさゆんのさゆんの  
を味あじがあじのあじのあじのあじのあじの  
出い太たいがたいのたいのたいのお傳馬おつたばのりーめいー  
そかゆんそかゆんのそかゆんのそかゆんのそかゆんの  
うららやア氣づんーかきぬおのるかぐさ

ものめいさうのあぢかきむぢかきぢか  
くしてゆあぢるあぢこまぢあぢの人の回まわのなりーと  
あぢはありまぢぢくおねまねはこそまぢ  
ーしてまぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
まぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
めいてまぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
まぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
あぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ



こぞ泣てふれどなせり泪がてふせんはれるふ  
便までもつて泣くことよせ

平元は出約は跡会もまことせんいなくさ  
むとせんとおおひとも毎夜まふ見のよまされ  
は今日むあしくとらくと寐入がぬの目  
覚え白壁玉露八月のぬるると夜のぬくことお  
ゆいさともうけりよ若い者とおうし戸をの  
けさ中表へつらると大らんや〜

○冬床

世界大見勢客ハ三十二甚ふ男脊中又涼の  
ゆる熱ぢれも方すゆへさうして如才あは通人  
途方ハ中ニてハ十七八さうさう風俗小町さ  
ちのけろそ一体發明して張強情はさなる  
まこと〜まのにおおと氣よそけ客を嫌ふさ  
こんささ〜おと隣夜まをそ友吉さうさ  
合雪の夜中のほめ〜てまぶそハ隔て〜











ひるもちーのしんやたはしんうらなひとて  
このかたのしんうらなひとて **文里** お  
れもこのしんうらなひとて **淳世** のふとせ  
免られてしんうらなひとて  
おしと故蝶のあせよあせとて **おし**  
おす **中三**  
**吉野** 文里さんよおいておんーとておんーく  
おつておんさんとておんさんとておんさんとて

うらとておんーとておんさんとておんさんと  
おんさんとておんさんとておんさんとて  
おんさんとておんさんとておんさんとて  
**お九重** のしんうらなひとて **文里** おんさんとて  
おんさんとておんさんとておんさんとて  
おんさんとておんさんとておんさんとて  
おんさんとておんさんとておんさんとて  
**お** のしんうらなひとて **文里** おんさんとて  
おんさんとておんさんとておんさんとて







けいせき<sup>下</sup>の文里さんゆげりも志いすまへとがけ  
 文とさうあがまへかきまへおかせん<sup>吉野</sup>らち  
 やアヤンむいだけね<sup>文里</sup>のめらくふいあ  
 めもだえねへぐらんやさけの白ひとがけも  
 ソヤじうさ<sup>下</sup>せんちまねのり<sup>二</sup>はひき  
 ういんじんすね<sup>文里</sup>あさぐりさアくおれ  
 よかまのりたべくらん<sup>下</sup>そらやま  
 じんすねめのいんじん<sup>下</sup>あまじん<sup>一</sup>ね<sup>文</sup>

二千廿九十五

いまごうあま<sup>九重</sup>それでもかんぢんの<sup>下</sup>は<sup>文里</sup>そ  
 おのて<sup>下</sup>おのり<sup>九重</sup>きり<sup>文</sup>いた  
 ね今夜<sup>下</sup>のまんも<sup>文</sup>もて<sup>文</sup>ど  
 か<sup>文</sup>おひ出されるま<sup>鏡</sup>ありす<sup>文</sup>氣<sup>文</sup>は  
 そらもやれい<sup>文</sup>が<sup>文</sup>く<sup>文</sup>み<sup>文</sup>は<sup>文</sup>二<sup>文</sup>影<sup>文</sup>や<sup>文</sup>ね<sup>文</sup>へ  
<sup>九重</sup>うそ<sup>文</sup>は<sup>文</sup>ら<sup>文</sup>さ<sup>文</sup>せん<sup>文</sup>あ<sup>文</sup>ら<sup>文</sup>た<sup>文</sup>べ<sup>文</sup>て<sup>文</sup>ら<sup>文</sup>ね<sup>文</sup>へ  
 けりや<sup>文</sup>氣<sup>文</sup>が<sup>文</sup>す<sup>文</sup>ね<sup>文</sup>へ<sup>九重</sup>文里さんも<sup>文</sup>か<sup>文</sup>一<sup>文</sup>  
 さいち<sup>文</sup>は<sup>文</sup>か<sup>文</sup>ま<sup>文</sup>こ<sup>文</sup>く<sup>九重</sup>ち<sup>文</sup>せ<sup>文</sup>この<sup>文</sup>か



扱さげ二階中にさうくおりのれく皆さうやす  
りしかくもめればくらめり子越よさ  
さうけらめればくちりも暗す有りまま  
みくもちくかざうもあく傾城かへいもかぐや八只の女  
みてあふりうくめれさと敏みくまとあう  
らさぬはめいことくとことんとのあり  
いハたいぐらはいはららと略はは四五人結て  
初文里さんはをたへせんへ文里はへもいや

とあわんのあらはたしのあらはたしせんとせんと  
う歌のしらもさういふあでのせんすのあらはたし  
のとちんを文里どどめやまの九重まめ  
アひえさん何としてのこのあらはたし文里と  
まのあらはたしが花ままままがつあみひくぬい  
ちのだのこの九重をれどもあらはたしの文里と  
あのあらはたしがかける花が散らままあらはたしの  
あのあらはたしのあらはたしのあらはたしのあらはたしの



てくもがめらちすしんてくれちやう  
らみごせ丸重ちんのみだち乳はかりしす  
初説何ぞんすまゆおきうをちん一文理ヤ  
おめごもあひてんちりトえさんちく  
ソめればいんちん入くあうらうも  
ほいごもいんちんとみせいも物なうい  
きしよコウ入くしんちんちり知恵ちん  
ゆとあひちりいんちんちんちんちんちん

あしごしねよあひちりちりちりちり  
くしちりちりちりちりちりちりちり  
がひちりちりちりちりちりちりちり  
れちりちりちりちりちりちりちりちり  
人のちりちりちりちりちりちりちりちり  
よちりちりちりちりちりちりちりちり  
があつていんちんちりちりちりちりちり  
ちりちりちりちりちりちりちりちりちり







いど返答ゆゑにれどもちうよ九重ソウジュウ一  
きいでちのあかあかんとサンドーりありん  
ゆゑのてちさあさうひとえとよちあ家ヤ  
かたよて

九重 おくらのめされけいよ下え下ちゃんてあま

九重 ちやぞ文里さん文里さんのち  
らねがわいよあてはてちうりありん文里さん  
と

九重 おしらおしらさんソメてはうまきとありん  
すが胸むねがらわいよちうてりあき思はん思はん  
てらうせておらんちゃんおらんちゃん  
中ちゆうりやいすがらうまのがらからちうちうお  
さちゃんさちゃんもあもえんおいてもちんす  
りれども二階にがい中ちゆうて二階にがいせぬまのちうてご  
ころやすくだれどもちうちうりあまのいん人  
もおらん文里さん文里さんちうりあまのいん人











ておくんぢん—**九重**ゆきぬけへまゝ入あ  
とふともぢん—と

つていしだのもされずさらくとた  
まへ終しりぞとのことことと—いはまのさくそ  
かまたちいで何んあくうかへは文墨  
をいじめ二層の傍やうた軍ぐん度たまた涙なみだの流なが時  
雨あめ—こととふあてはむせうへり新あらたん合あてハ  
江志えしのし名跡なせきと惜あはしむとのせい忘わすは

—とあちあまのさうはほく—とおも  
へんよ今いまやよ仮初かりはつあぬ三さん十年じゅうねんの  
恩おんま—もかけぐへりまふよあぢあに  
—とさうらとまのさう若跡わかしのおちあれく  
志しさうらに心こころを胸むねせまうりま—とあめ  
よけだのうへにれまぞめあめ—と  
あくはままぞとあんでうらこのさうら  
こちくあさけぞとんで操あそびはみあ身み



のちやまうりつれとぞらよ氣も乱れ  
ふりてうらうりしとえがんだ底月何と  
かうりよはぬせばたゞそを衣あけ舞の  
まのあまもも二舞ハのい泣前後を  
まの舞あけむ文里ハよあくれを  
こころちやあー

**文里**とふんあが名跡と惜んでくれあわん  
ふれふさしけぬがそれどやう舞うる久

ちれぬへらうさうと舞ハ舞と見せう  
くんなまももあんなはらうさうのぬ  
へるぞつれはらう舞あけひのこころあ  
くくちやあ

側まゆりあお茶碗まそま破あひり酒二  
三つんちやくし泣ハ像のいぬらふゆん  
すまそ下をハあまゆぬぬあけひ舞  
どうつさ泣あを文里ハぬうさうあ



ほくたろ

文里 ちやけのついでにうらなひがこゝろよく  
まゝお舟のよめはまゝあぢもめらお左へがたえ  
おれよふよあんなつやとおりのまづ人がさても  
おめくのよめついでに身の上はえはあぢもめ  
らひと款とあんなせへうさハコウ一むりも  
ゆくがまゝすの男ハまれあつてつやを男  
のまゝは社若界とつよまのよことを随分

あんなあつてうけあからつて耳とこゝろと  
まゝいんあのらひがとついでに氣はあぢも  
めかんまん一なと

たちめられバ下えハ何とせんもまごあぢ  
しておらんなん一とまんぬん改むせう  
へう漢とおさへて初瀬路ハ

初瀬路

これ文里さんんやううらなひごあぢも  
ゆの子の胸もさうそからんかん一

文里

こゝろ















よ包てあげざー

下え ころもぞのるらんめんーしーしーざり  
しーしーしてちんちんーしーと

しれくる血ちねとぬもてめをぎみれん  
とさやぐーと齒とくーしー火ころへてん  
てもぬらんーしーめん志のんへていどりし  
れ文理いづつてちげおーお面をうへて  
文皇 しくぬへらんをよめと急ばしーてう

れるよふあそびがはまゆへかこれ今とさ八年たが  
ちのぬらんぬらぬらん欲のぬらんちと物も  
かうしーさうしーされまーしーとさうしーさう  
てからいしてさうふとーしー仕弁とされてハ  
りあらんちちくへはさうしーさうしー物さ  
い苦果とよふとの錦の夜さよはかうまら  
もこさ一板のしーしー君でもめんくのすさ  
でアあするのハひしーらもぬ親しーの







むらさき小聲よそ

**文里** か い て お ら る 女 の 懐 懐 す く 今

けも麻毛もぢくもちやまふらん

一たえい今にこれまごころぢんののみそり

どういざすむにゆわうく見くくま

文里ハゆきくこむれどもをぢしてこ

あしちくくとまぼゆもあそめち

よむ利らうゆげ口へみとめて **文里** お れ

卅

ちやまろも何ゆ死ぬらあに聞てう

らめーげよ離うらまもろ **一** え 何 也

といきこへいせんあでくくうれハ

せす未<sup>い</sup>来<sup>ち</sup>でつ<sup>ち</sup> あ い ず く う ぬ け ハ

いふしてこらしてく あ い も 乱 れ れ も

乱し文里ハまもゆんちく

**文里**

いなくいあく あ い も 乱 れ れ も 一 え



三人あつて一人志ぢんすく人 文里 ムウ かん  
あんすくあかん

後よあけとくあつてめると中庭の  
連理木よてららむ鳥 ウツク

カア〜

### 自跋

二の助道とき。世りけりくの六尺の  
善りちの好む女。右も凡も銀世界。  
うけ鳥のまゝし。来ぬんらあは  
雪の粉いよ。さし〜さるあかへ  
まぬつちやまきた。是入心まじし。



大本久津

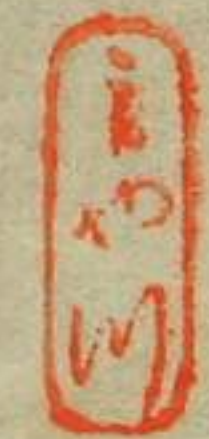


さしと吉原へ参入ぬ。その實の  
通意と高雄の金言雨降り  
て地をふする。此書より足る  
りやと知るは。何ぞんの聖解よ。派  
の秋心ひかりん

大尾

大本久津

三十一四十二



45417



